とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズくがはら第2保育園
施設所在地	大田区南久が原2-9-1　mii8　0001号

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

絵本

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

昨年のプログラムで絵本をテーマに活動したところ、子ども達が絵本に対して深く関心をもっており子どもが気づいたことを保育者と共有する場面が多くみられた。また絵本から感じたイメージを絵でのびのびと表現しそこからのやり取りも楽しんでいたことに気づいた。そのような経験から、保育者が読み聞かせをしたことが発端となり遊びの中で印象に残った場面を再現している様子がみられたり、行事の製作を楽しんで行う姿もみられるのではないかと考えた。１冊の絵本から子どもが主体的に取り組めるのではないかと考え今年度も引き続き絵本をテーマとし活動に取り入れることとした。

当園は小規模であるが、子どもひとりひとりが好きな絵本をゆっくりと選びやすいという強みがある。選んだ後は自分のペースで読む、きれいな色の絵やイラストの豊かさに興味をもち集中して見るという環境を作りやすい。落ち着いて絵本と向き合うスペースを作ることで生活とのつながりを感じてもらい絵本の世界をより楽しく提供できると考えている。

２．活動スケジュール

7月　3回	12月　2回
8月　1回	1月　1回
9月　1回	2月　2回
10月　1回	3月　1回
11月　2回	

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

絵本、スケッチブック、画用紙、絵の具、模造紙、水性ペン、型抜きパンチ、CDデッキ（CDつき絵本購入の為）、カメラ

絵を描くときは絵の具や紙類は子どもが自分で好きな素材を選べるように環境設定をする。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

夏は「色」の絵本を主にした。この時期は感触遊びの活動を行ったため、絵の具をたくさん使う色水遊びやボディーペインティング、寒天遊びなど五感を使って経験できるものを取り入れた。「どんな色がすき」「いろいろばあ」などの絵本を繰り返し読むことで色の認識が深まりる。好きな色にこだわりをもったり色の名前を知り覚えた色を言葉で表現し友だちとの違いや一緒の色を選んだ時のうれしさを感じる。秋以降は絵本からイメージしたことを絵や製作物で表現できるように設定した。行事が多い時期になるので、製作の導入に絵本を取り入れ読み聞かせをすることで子ども達がその後の活動に期待感をもつと共に、ハロウィンやクリスマス、節分、ひなまつりの製作物を飾ると保護者にも知らせ達成感を味わう。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

行事に向けて製作活動の導入に使用した絵本から広がりをみせその世界を想像している子ども達の姿がある。食事中の会話や遊びの中から聞こえてくる「おばけはこわいよね」「おばけばけばけ」「かぼちゃおばけ」など、行事に向けて子ども達が作った製作物を指さしてその時間を楽しんでいる。保育者が「夜になると光るのかな？」「おばけがお菓子をくれるのかな？」と問いを出してみると「光るよ」「おばけのお菓子」「こうもり　ひゅー」など様々なやりとりが続く。人気のある絵本は何度も読んでほしいと保育者にリクエストしており興味関心が高まっていった。活動中の写真を掲示するとすぐに見つけて友だち同士くっつきあいながらその時を振り返り自分の思いを言葉にだしている。保護者も活動の様子を見ることが出来るので親子で話題にしながらコミュニケーションがとれていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

映像やカメラの記録から、保育者が子どもの言葉、表情、行動などを振り返り共有することで年間の活動を通して成長が感じられると共に子どもの発想力やいろいろなものに関心を持っていることに気づかされる。友だちと一緒の遊びをしている時にみられる子どもの自然な笑顔や楽しいことを探している姿、保育者とのやりとりが次の日にも繋げていけるようにデザインできたところは良かったと思う。しかし、乳児の活動ということもあり探究するまでデザインすることは難しいと感じたこともあり今後の課題として振り返りをもう少し深くしていくことが必要だと思った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズくがはら第2保育園
施設所在地	大田区南久が原2-9-1　mii8　0001号

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

食育

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

戸外活動時に近隣の家で育てている野菜や果実を見つけ興味を示すことから食育をテーマとした。給食で提供される食材は小さく切ってあるため、実際の形や大きさに触れることで食べてみようという意欲と命をつないでいくということを知ってもらおうと考えた。そのために日常の遊びの中から食に興味関心がもてるように玩具を準備し、ままごと遊びやおみせやさんごっこなどを通して楽しくやり取りをしながら食との繋がりを身近に感じられるように環境を整えることとした。

当園は自然が少ない地域の園ではあるが、戸外活動中に近隣の家で育てている野菜や果実に触れる、見るという経験から子ども達が食材に興味を持ち始めることがあるため食育をテーマとした。小さな園ならではの強みである家庭的な温かい雰囲気があるので、ままごとやお店屋さんごっこなどで友だちや保育者とやり取りをしながら楽しく遊び、食に関心、興味をを持ちやすい環境がつくりやすい。また、毎年新入園児が多い中、乳児の保護者から食事に関する不安や相談がかなり増えている事もあり「食べる」という行いが命に繋がっていくことを知り、また子ども達が食を身近に感じられるよう遊びの中から食育活動を行うこととした。

２．活動スケジュール

6月　2回	12月　3回
7月　1回	1月　1回
8月　1回	2月　1回
9月　2回	3月　1回
10月　1回	
11月　1回	

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
布製　ベジタブル・フルーツセット一式
クッキングセット　机上使用キッチン・コンパクトテーブル
砂場用カフェセット
食育かるた　からだのしくみエプロンシアター

気に入った玩具を自分で選べるように環境を整えたが、成長によって玩具の入れ替えを行い遊びが発展できるようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

年間食育計画を見据えながらその季節の食材を取り入れ活動を行う。近隣との繋がりも大切にし、お店に食材を買いに行くという体験を通して買い物のマナーも知らせる。購入した食材は形、色、感触、重さ、転がりなどを実際に手にして体感すると共に切ったあとの匂いや色も五感を使って感じられるようにした。クリスマスにはクッキーづくりを行うが、生地を伸ばしたり型抜きをしたりという作業はまだ難しい年齢であるため、日常の活動で粘土遊びをしながらその練習ができるように計画をする。その他、遊びの中でままごとセットを使用しながら友だちや保育者と言葉やジェスチャーのやりとりで食に対して興味がもてるように時間をたっぷり使って遊べるようにする。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

小グループに分かれて活動をする。自分たちで買ってきた食材を保育者が机の上に置くと食材に触れ持つ、匂いをかぐ、指で押す、転がすなどの行動を何度も行う。玉ねぎの皮をむき始める子がいると真似する子がいる。かぼちゃの大きさに「おー」と声をだす姿もあり保育者が野菜や果物の名前を知らせると初めて見る食材に興味をもちながら子ども達も繰り返しその名前を言っている。クッキーづくりでは粘土遊びの中から伸ばす、型抜きをする、並べるなどの練習を行ったことにより当日のクッキングに期待をもつことができた。クッキーづくりも小グループで行なった。「ぼく星にする」「わたしお花とハート」と自分で使いたい型の名前を保育者に伝えている場面もみられ真剣な眼差しと集中力で最後までやり切り達成感と満足感が得られる。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

年間を通して食育活動を行うことにより食に対して興味がもてるようになり関心が深まったと思う。買い物体験から地域や社会のつながりを深め、買い物時のマナーを学べる機会は子ども達の良い経験になった。この買い物経験が食材に触れるという期待感を高まらせ、わくわくした気持ちで活動に臨めたので想像以上の効果があった。ごっこ遊びの中でも場面に応じた言葉を使うことで友だちや保育者が発する言葉から食べ物の名前を獲得している。想像力も培われ遊びが広がりをみせていた。実際の食事にも繋がり一定時間座って食べる、挨拶をする、作ってくれた人に感謝するという基本習慣も身についてきていることを考えると今後も継続しく予定。